

2017年度

ユネスコ活動
普及啓発作文入賞作品集



富岡ユネスコ協会

Peace

富岡市立富岡小学校 6年 曾根 希美

「平和の願い うたにこめ はばたけ空へ 白いほと」

これは、私が小学2年の時から入団している富岡ユネスコ少年少女合唱団の団歌の一節である。合唱団の「ユネスコ」が気になり、以前ユネスコについて調べたことを、思い出した。その中で、印象に残った文章がある。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心に平和のとりでを築かなければならない。」これは、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の精神の土台となるユネスコ憲章の前文である。

あの時、合唱団の団歌と憲章の文章から、ユネスコとは、世界の平和について考え、動いている組織であると思ったことを覚えている。

私は、日本で生まれ、日本で生活しているが、その中で平和について考えることは少なかった。好きな服を着て、お腹いっぱいご飯を食べ、冷暖房が効いた自分の部屋でゆっくり眠ることができ、学校にも通っている。だが、これは私にとって普段の生活として当たり前のことであり、平和など感じていなかった。しかし、合唱団の国際理解バスで色々な問題があると知り、私の過ごしている環境がいかに平和であるか気付かされた。世界には、196の国がある。そのうち、発展途上国は、146カ国ある。そこでは、貧困のため様々な問題が起きている。食糧不足や医療の不備、不十分な教育な

どの劣悪な環境が複雑にからみ合い、なかなか貧困から抜け出せないでいる現状があるのだ。

そのような国々をユネスコは、「世界寺子屋運動」で支援している。世界寺子屋運動とは、貧しくて学校に行けない子どものために、書き損じハガキによる募金をし、学校に行けるようにするという運動である。他にも様々な問題はあるが、寺子屋で学ぶことができれば、自分で考え、行動し、経済を活性化させることができる。農業を学ぶことができれば、野菜や米を育てて、食糧問題を改善できる。そうやって他の問題も解決に向かわせるため、ユネスコは教育に力を入れているのだ。

私もこの事業の取り組みに毎年参加している。だが、もっと他の人に世界寺子屋運動を知ってもらいたい。だから、小さな取り組みではあるが、クラスメイトに声を掛けていきたい。

私たちは、地球の仲間である。皆が平等に暮らせる平和な世の中になるように願っている。

行動一つで世界は変わる

富岡市立西小学校 6年 今井 果子

ユネスコは1946年11月、国際連合教育科学文化機関として誕生しました。教育、科学、文化、コミュニケーションの分野で国際協力を進め、平和のとりでを築く活動をしています。調べたとき、生活面やコミュニケーションなどのことも学べるというのを見て、こういうところから平和な世の中につながっていくのだなと思いました。

そして、ネパールに住むタラマティ・ハリジャンという女性のことを知りました。その女性は12歳で結婚。16歳という若さで出産しました。41歳のとき、識字者になりました。41歳になるまでは学校に通えなかったため、ただただ家事をしていたのです。そんな彼女の人生を変えたのが寺子屋という、読み書きや計算を学べる場所でした。私はこの女性の人生について思ったことがあります。この世の中には沢山の人がいてみんな人それぞれのくらしや、生き方をしている、楽をして楽しく暮らしている人もいれば、努力していても貧しい暮らしをしている人だっています。それでもみんな、あるときは幸せを感じ、またあるときは努力してはい上がって来ることだってあると思います。世の中の人の人生やくらしは人それぞれでいいのだということを改めて感じました。

そして、ユネスコでは全ての人が質の高い教育を受けられ

るようにすることを目指して、「世界寺子屋運動」という活動をしています。小学校の入学年齢を過ぎてしまった子どもたちや十代の若者が学べる場がほとんどない国もあります。そのまま若いお父さん、お母さんになってしまった人たちが小学校で学ぶ基礎学力を身につけられる受け皿も皆無に等しいため、誰もが教育を受けられる機会を作ることが必要だと言います。全ての人というのは難しいかもしれないけれど一人でも多くの人に学ぶことの大切さや面白さ、難しさなどを味わって欲しいです。

これらのことを調べてみて私はこの世の中は本当に広いなと思いました。同じ地球に住んでいても、学校に行ける人やいけない人、努力をしないで楽に暮らしている人や努力をして一生懸命毎日暮らしている人など色々な人がいます。私は本当に幸せです。これからも今まで以上に悩むことや苦しむことなどあると思うけれど、努力をして強く、楽しく、そして悔いのない人生を送っていったらいいなと思っています。ユネスコのことを知り、それを調べたことにより、改めて自分の今までの生活やこれから先の生活などのことを考え直すとても良いきっかけとなりました。これからどんどんこの世の中が笑顔あふれる平和な世の中になって行って欲しいです。

世界寺子屋運動から感じたこと

富岡市立西中学校 3年 和田 百加

「ユネスコ」ときくと私は世界遺産を思い浮かべます。この作文を書くにあたってまずユネスコがどのような活動をしているのかと考えてみました。世界遺産登録された遺産の保護、冬にある書き損じはがきや、ペットボトルキャップの回収で、世界の役に立つように活動しているということしか知りませんでした。

そこで、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟のホームページを見てみました。子どもにも分かりやすいようになっているタンス遺産や寄附・募金の協力をしているものもありましたが、私が一番印象に残ったものは、世界寺子屋運動です。私も耳にしたことはありましたが、ユネスコが行っているということ、また活動内容は何も知りませんでした。

世界寺子屋運動とは、途上国の教育支援のことでした。日本は義務教育があるため、識字率が100%だと思います。日本に生まれた私にとって字が書けることは当たり前だと思っていました。また、まだ世界には非識字者の人がいるということも知っていました。昔は女性には教育は必要ないという考えもありましたが、今は無いと思っていました。それが、調べていくうちに、この世界の現実にたどりつきました。

今、世界の成人のおよそ6人に1人は読み書きができないということ、戦争や貧困、女性であるという理由だけで教育

を受けられない人がいるということ。同じ地球上に住んでいるのにこんなに差があることにおどろきました。他にも、貧困による負の連鎖ということがありました。教育を受けられないことで、読み書き・計算ができないまま育ってしまい、仕事に就けず、収入が少ない状態が続いてしまい、さらには本人や子どもが教育を受けられなくなるという悪循環のことです。

そして、それを断ち切る方法の一つとして識字教育があり、ユネスコはその識字教育、世界寺子屋運動をしているのです。

他人事になりがちですが、同じ地球上にいる人類としてみると、どうしても助けたいと誰もが思うはずですが、実際には難しいと感じてしまいます。

私の将来の夢は図書館司書です。大きな役割はこの世代の情報を次の世代に伝えるということです。私は本が好きなのでなりたいたと思いましたが、ユネスコのこと、世界寺子屋運動について調べてからは、自分が好きな事を将来の夢にするのではなく人の役に立つ、世界が平和になるために少しでも役立つ存在になりたいと思いました。自分だけが好きな事を追いかけているのが、頑張っている人に申し訳ないと感じました。

これから先、どんなことがあるか分かりませんが、国際平和を一番の目標にし、行動していきたいです。